



本気さ、可能性を信じてあきらめない心に感動

校長 海發 真一

1月に開催したオリンピック・パラリンピック教育講演会では、バレーボール女子オリンピック出場のヨーコ・ゼッターランドさんを講師にお招きし、「人間力の育成ーオリンピックを経験してー」というテーマでお話をいただきました。

講演では、目標達成に向けて強い意志をもつことや基礎・基本を大切にする姿勢、可能性を信じてあきらめない心の大切さについて、御自身の経験を深く掘り下げ、わかりやすくお話してくださいました。

私は後日、Vリーグ女子の試合を観戦しました。試合はその時点でレギュラーラウンド第6位のNチームと第7位のAチームの対戦で、大勢の観客が試合開始を楽しみにしています。

会場は田園調布高校が所在する大田区の総合体育館で、この試合はNチームのホームゲームです。Aチームにとってはアウェーゲームで、Nチームの大勢の応援団に圧倒される中、試合が始まりました。

プレミアリーグの試合だけに選手の技術力は大変高く、熱戦が繰り広げられていますが、Aチームの得点が伸びません。選手の気持ちちが空回りしているようで、力を発揮できないまま第1,2セットをそれぞれ12-25、20-25で落としてしました。

第3セットに入ってからAチームのディフェンスの連携がよくなり、チームの攻撃力も増してきましたが、これにはミドルブロッカーのキャプテンとセッターの副キャプテンの力量がとても大きく作用したように思えました。

キャプテンや副キャプテンの役割は、他の選手の気持ちやチーム全体の守備力・攻撃力を高めることにあります。私だったらミスをした選手に対して、つつい嘆きの言葉が出てしまうのではと思いますが、この二人のリーダーは仲間を励まし気持ちを高め、勝ちに向け自分の仕事を一生懸命にしました。また、メンバーへの温かな目配り、気配りができるリーダーの人柄への信頼が、仲間の結束力を一層高めていくようにも見えました。

2セットを連続して落とし、チームの士気も停滞気味でしたが、リーダーが気迫あるプレーを継続することで、他の選手の気持ちも上向いてきました。リザーブの選手たちの「もう一本！」の声援も一段と大きく響き、リーダーの本気さ、一生懸命さが他のメンバーの心に確実に届いた結果です。「勝ちたいと思う気持ちの強い方が勝つ」というメンタル要素が勝敗を左右すると言われますが、確かな技術力に加え、勝ちに行くというリーダーの強い意志やあきらめない心が、選手の心をひとつにしていけます。

ゲームはこの後、第3セット25-21、第4セット31-29、第5セット15-11と3セットを連取し、Aチームはこの試合に逆転勝利しました。Nチームの活躍も素晴らしいものでしたが、途中、顔に打球を受け負傷しながらも戦い抜いたAチーム副キャプテンの雄姿と選手全員の連帯に感動を覚えました。

講演会でお聞きした目標達成に向けて強い意志をもつことや可能性を信じてあきらめない心の大切さを噛みしめ、努力する姿勢や困難に立ち向かう意欲の形成等、スポーツが人の成長に果たす役割の大きさを再認識できたことは、とてもよい経験でした。

田高でも多くの生徒が部活動に励んでおり、運動部、文化部を問わず、部員をまとめるリーダーとメンバー一人一人のたゆまぬ努力が部の総合力を高めています。自分の仕事をしっかりこなすという責任感、壁を乗り越えようと努力する姿勢、更には仲間を思い遣る心を大切にする中で活動の楽しさを見出し、自己の成長を実感してほしいと思います。



ハーモニーについて

副校長 牛込 俊裕

合唱祭を終え1、2年生は後輩を迎える時期に、3年生は母校を巣立つ時期になりました。合唱祭は学校での対応で

見ることができませんでしたが、みなさんがとても良いハーモニーを奏でていたことを先生方から聞きました。ここではハーモニーについて記述します。

日本語では調和の意味をもち、語源は古代ギリシア語のハルモニアです。私は理科教師であり科学について考えると、科学技術は自然とのハーモニー、調和によって発展してきました。ここで以前話した私の研究を例に述べます。教師をしながら通学した工学研究科では光触媒を研究しました。この分野は我が国が世界をリードしており、最先端の研究をしている楽しみから、深夜に渡る実験を厭わない生活を過ごしました。



研究の大半は成膜技術の改良、チタン板に減圧化でプラズマ照射し、生成物を評価することです。電子顕微鏡で良い表面状態を確認して喜び、反応器にかけると思えるような結果が得られずがっかりする、一喜一憂する日々を送りました。当時は一部での実用化がはじまったばかりで、身近なところでは汚れない便器が商品化されていました。卒業して（正確には修了して）10数年が過ぎ、現在は実用化が進んで多くの場所で使われています。多くは環境浄化が目的ですが、新しい分野にも発展しています。

私が研究していた頃はチタンが反応物で、利用できる光が紫外線に限られていましたが、現在はその反応に加えて、色素やチタン以外の金属を添加（正確には、吸着と付着）することで、可視光での反応が可能になりました。また、プラスチックフィルム上に製膜し、そのフィルムから電気を取り出す技術が商品化される段階にあります。こうした工夫も物質の調和のうえに成り立ちます。

チタンはクラーク数0.46、存在割合が10位の身近な元素です。太陽光を利用して、身近にある物質でできたフィルムを建物に貼り付ければ発電ができます。すなわち、クリーンエネルギーの実現です。私たちの生活は電気エネルギーに頼る割合が大きく、このエネルギーを太陽光で賄うことが可能になります。しかし、自然との調和の実現ですが、この方法で全てが上手くいく訳ではありません。この電池の実用化による新たな課題もあり、さらに調和を考える必要があります。

クラスの一人一人がハーモニーを目指し、指揮者をはじめ調和をするための努力をした合唱祭でした。この努力はこの先、どのような分野で活躍するにも必要な力です。田高に入学し、合唱祭で頑張れたことを誇りに思ってください。

進路指導部 進路行事 実施報告

進路指導部 森田 真央

■大学説明会 10月12日（木） 6・7時限目

1・2年生を対象に「大学説明会」を実施しました。参加大学17校は以下の通りです。

公立大学 都留文科大学・横浜国立大学

私立大学 青山学院大学・学習院大学・北里大学・國學院大学・成蹊大学・中央大学・東京女子大学・東京都市大学・東京理科大学・東洋大学・法政大学・武蔵大学・明治大学・明治学院大学・立教大学

2年生は17校から自分の選択した2校の説明を聞きました。説明会では、各大学の特色を大学案内の冊子やスライドなどを用いてわかりやすく説明してくださいました。学部学科のカリキュラムや入試方法、受験状況などを中心に、生徒の真剣にメモを取っていた姿が印象的です。自分の進路について考えを深める機会となりました。

1年生は17校から選択した1校の説明と、中央大学の入試センターの方による進路講演会を聞きました。進路講演会を通して、大学進学の意味について考え、科目選択や進学に対する意識改革のきっかけとなったことと思います。

今回の大学説明会を通して、生徒一人一人が自分の進路について改めて考え、目指す大学に向けてモチベーションを高められました。

■大学別入試説明会

3年生の希望者を対象に各大学の担当者に来ていただきました。実施した大学は、駒澤大学・成蹊大学・専修大学・中央大学・東京都市大学・法政大学・明治大学・明治学院大学です。説明を聞き、生徒は直接質問をしたり相談したりして、受験校について熟考する機会となりました。

■平成30年度大学入試センター試験

1月13日（土）・14日（日）に、平成30年度大学入試センター試験が行われました。今年度は199名が受験し、1月15日（月）に本校で自己採点しました。

■2年生公務員ガイダンス 11月20日（月）

公務員試験に合格した3年生の生徒から、2年生の公務員希望者に対し、体験談を話してもらいました。

<今後の予定>

■卒業生合格体験談 3月14日(水) 1・2時間目(2年生) 3・4時間目(1年生)

3年生から大学合格体験談を話していただく予定です。先輩からの話を聞き、2年生はより一層受験を意識することになります。受験日から逆算して1年間のスケジュールを立てましょう。勉強方法やアドバイスなど参考にしてください。1年生は、田高での過ごし方を見直すきっかけとなるとと思います。授業に臨む姿勢や休日の過ごし方などを振り返り、気持ちよく新年度をスタートさせましょう。

チーム田高として進路指導部も全力で生徒をサポートしていきます。来年度もどうぞよろしくお願い致します。

合唱祭を終えて

第2学年 吉田 宣浩

昨年も「合唱祭を終えて」という題でこの「さきはへよ」の原稿を書いていたことが、つい先日のように思い出されます。1年経って67期生はしっかり成長できたのかがとても気になります。

さて、2月14日には67期生にとって最後の合唱祭が、めぐろパーシモンホールを舞台に開催されました。今回は昨年と比べ、練習に充てられる期間や時間が大幅に少なくなり、充実した内容になるかが心配されましたが、1年生も2年生も限られた練習時間や場所を工夫して、本番の合唱はどのクラスも立派な歌声を聞かせてくれました。

ただ、今年度はインフルエンザの蔓延が例年に増して顕著で、ホームルームによっては人数が大幅に少なくなるだけでなく、ピアニストまでが欠席するという事態となってしまいました。昨年度も似たようなケースがありましたが、欠席せざるを得なかった生徒にとっては、さぞかし残念だったと思います。そんな中、出席できた生徒は、少ない女子を左右から男子がはさんでカバーするなど、工夫して頑張っていました。お疲れ様でした。

合唱祭の結果は、2年E組が金賞及び校歌賞、2年C組が銀賞、ベストコンダクター賞に2年E組の男子、ベストピアニスト賞に2年F組の女子と銅賞以外は全て2年生が獲得できて、上級生としての面目を保つことができました。1年生も休日練習や早朝練習など、かなり頑張っていたので、来年の合唱祭がさらに楽しみになりました。

合唱祭が終わるといよいよ2年生は受験モードに突入です。

67期生は冬休み中に「第一志望届」を作成し、目標をしっかり持って学習に取り組んでいるところです。今学期だけでも1月には「総合学力記述模試」(全員)、2月には「センター試験早期対策模試」(一部)、3月には「3年第1回スタディサポート」「GTEC」「小論文模試」(全員)と盛りだくさんのメニューをこなしています。時には苦しいこともあるとは思いますが、一年後の栄冠を目指して頑張っていきたいと思います。



合唱祭を終えて

第1学年 高野瀬 一

早いもので今年度も終わりが近づいてきました。先日、今のクラスとして臨む最後の学校行事、第11回合唱祭が目黒パーシモンホールを舞台に開催され各クラスとも素敵な歌声を響かせてくれました。

1年生は初めての合唱祭ということもあり、2学期の終わりごろまではややのんびりムードが漂っていましたが、3学期になると学校全体が一気に合唱祭に向けて動きだし、放課後は合唱祭の練習一色になりました。高校の合唱祭は中学校までとは違い、ほとんどすべての練習を生徒だけでやり切らなくてはなりません。その過程で仲間同士ぶつかり合ったり、演奏がうまくいかずに悩んだりする経験を通して社会人になるための力をつけていくことになります。ややストレスのかかる行事である点是否めないのですが、この行事を通して得られることはこれからの人生に役に立つことばかりです。

さて、今年の一年生、課題曲校歌の混声四部合唱はかなり難易度が高くとても難しいのですが、しっかり歌えておりとても立派でした。自由曲も各クラス表現を工夫しており、2年生とも互角に渡り合えるほどの出来映えになっていました。本番までにいろいろな苦労があったことと思いますが、全体としてとても良い合唱祭だったと思います。少し後悔や反省のある方もいるかもしれませんが、68期生は来年度もう一度合唱祭に参加できます。今回の経験を生かして、より素晴らしい行事に成長させていってもらえたら嬉しいです。



さて、ここからは気持ちを切り替え、進級を見据えてしっかりと学習活動に取り組むことになります。まずは、学年末考査が迫っています。合唱の練習も勉強も計画性と実行力が大切です。年度末、ぜったいに油断しないで集中していきましょう。

自分史をまとめよう

生活指導部 荻原 秀明

皆さんは自分のことをどれだけ理解していますか。自分を理解することなんて無理かもしれないと思っている人が多いのではないのでしょうか。やり方の一つに「自分史を作る」というやり方があります。今までの自分の人生を振り返り、歴史年表を作ることから始めます。記憶がある項目を、事細かに書いてみましょう。例えば小学校の時は、サッカーチーム入っていた記憶があれば、「きっかけ」「ポジションの選択は」「楽しめていたか」また「どのタイミングで何がきっかけでやめてしまったのか」など可能な限り掘り下げて書いていく作業です。「なぜ」と言うキーワードを10回くらい来返し掘り下げてくと良いでしょう。次に、そうして掘り下げていった自史の中に、共通する項目や共通する価値観がないかを探してみましょう。事柄の継続性や、最新の情報を求める自分の感性など探してみましょう。自分を理解することは、他人のことを理解する力を身に着けることにもつながります。

今年の生活指導部のスローガンは「人にやさしく、自分にきびしく」です。理解し実践するために「自分史を作る」作業を行ってみて下さい。

66期生と共に歩んだ3年間

第3学年 玉田 将太

66期生と歩んできた3年間もいよいよ終わりを迎えようとしています。あっという間の3年間でまだまだ一緒にいられる感じがしてなりません、それぞれの進路に進んでいくことになります。別れは寂しいものですが、新しい出会いもあります。人との縁を大切に新しい価値観も身につけ、充実した人生を送ってもらえればと思います。

3年間で振り返ると、1年生はドキドキの入学式に始まり、行事に部活動に勉強に一生懸命取り組み、新しい人間関係を築きました。スタディキャンプで静かに何時間も勉強に取り組む姿が今でも思い出されます。

2年生はクラス替えがあり、人間関係の幅も広がる中、高校生活にも慣れてたくさんのことにチャレンジする1年だったと思います。北海道の修学旅行はとても良い思い出になりましたね。地域の方との涙あり笑いありの民泊も経験することができました。

3年生は受験の一言に尽きます。学校で自分の進路実現に向けて勉強や進路の研究をする姿が毎日のように見られました。受験勉強に専念する雰囲気の中でも勉強だけでなく、行事を大切に熱く取り組むことができる人もたくさんいました。

3年間で簡単に振り返りましたが、たくさんの思い出はできたでしょうか。勉強に部活動に行事に一生懸命に取り組み、どんどん成長していった66期のみなさん。本気で過ごした時間こそ、自分の力となり、その真剣な姿勢は周りの人にも伝わっていきます。日々全力で何事にも熱く取り組む姿勢をどうか忘れずにいてください。

みなさんとたくさん笑って泣いた日は一生忘れることはできません。それぞれの進む道でも笑顔溢れる毎日を！66期全員でまた集まる日を心から楽しみにしています。卒業おめでとう。



経営企画室からのお知らせ

今年度までは「就学支援金」「奨学のための給付金」等の申請の際には、保護者の方の収入状況の確認のために、「課税証明書（非課税証明書）」を提出していただいていた。しかし、来年度からの「就学支援金」「奨学のための給付金」等の申請の際には「マイナンバー」をお知らせいただくことにより「課税証明書（非課税証明書）」に替えることになりました。提出にあたっての具体的な方法や、日時は今後ご通知申し上げます。

保護者の方には、「マイナンバーカード」か「マイナンバー通知書」がお手元にあるか、今のうちからご確認しておいていただけるようお願い申し上げます。